

研究教育業績（過去5年間）(2016～2020年度)

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) Atsushi Sobajima, Takumi Okihara, Shigeaki Moriyama, Naoyuki Nishimura, Takako Osawa, Kazutaka Miyamae, Hisao Haniu, Kaoru Aoki, Manabu Tanaka, Yuki Usui, Ken-Ichi Sako, Hiroyuki Kato, Naoto Saito, Multiwall Carbon Nanotube Composites as Artificial Joint Materials, ACS Biomater. Sci. Eng. 14:6(12), 7032～7040, (2020).
- 2) 松木祥彦, 松本遥奈, 佐古兼一, 矢嶋美樹, 渡部多真紀, 渡辺茂和, Geriatric Nutritional Risk Index を指標としたバンコマイシンによる腎機能障害発現割合と血中トラフ濃度の比較検討, 日本環境感染学会誌, 35(6), 1 223～232 (2020).
- 3) 榊拓人, 笠井英史, 町田充, 鈴木萌子, 佐古兼一, TDM 解析におけるベイジアン法を利用した血中濃度予測に対する標準誤差の意義. , TDM 研究, 37(2), 59～68, (2020).
- 4) 松木祥彦, 佐古兼一, 矢嶋美樹, 松田佳和, 渡部多真紀, 渡辺茂和, アミカシン投与時における腎機能障害の発生割合と血中トラフ濃度に関する回帰分析, 日本環境感染学会誌, 35(1), 1 22～30 (2020).
- 5) Akihito Kudo, Tetsuya Ishikawa, Hidehiko Nakamura, Kota Yamada, Shiro Nakahara, Isao Taguchi, Teruo Inoue, Ken-ichi Sako, Mamoru Kyogashima, Serum Sulfatide Levels across Atheromatous Plaques are Significantly Affected by Plaque Injury Caused by Percutaneous Coronary Intervention, SN Compr Clin Med, 2, 893～898, (2020).
- 6) Yoshikazu Matsuda, Hisao Haniu, Tamotsu Tsukahara, Takeshi Uemura, Toshio Inoue, Ken-ichi Sako, Jun Kojima, Tatsuro Mori, Kazusaburo Sato, Oral administration of porcine liver decomposition product for 4 weeks enhances visual memory and delayed recall in healthy adults over 40 years of age: A randomized, double-blind, placebo-controlled study, Exp Gerontol. 141, 111064, (2020).
- 7) 見崎知子, 山田恭聖, 永井琢人, 佐古兼一, 川澄紀代, 大西正文, 新生児低体温療法におけるゲンタマイシンの薬物動態の検討, 日本小児臨床薬理学会雑誌, 32(1), 39～44, (2019).
- 8) 鈴木萌子, 笠井英史, 佐古兼一, 清水裕, 織本桂, 矢吹直寛, 渡邊なお子, 丸林万希子, 中村益美, 駒井信子, 渡邊好造, 成人がん患者における好中球減少の影響を考慮したバンコマイシンの母集団薬物動態解析, TDM 研究, 36(3), 96～104, (2019).
- 9) 鈴木萌子, 笠井英史, 佐古兼一, 母集団薬物動態解析のための採血デザイン検討ツールの開発, TDM 研究, 36(3), 81～95, (2019).
- 10) 土井孝良, 田村道, 奈佐吉久, 佐古兼一, 齋藤博, 原口一広, 6年制薬学部全学年を対象とした喫煙に関する調査研究 喫煙の嗜好・文化性について, 日本薬科大学教育紀要, 5, 42～46, (2019).
- 11) 橋本直人, 佐古兼一, 諏訪淳一, 新阜愛梨, 佐野円俊, 猪川和朗, 石原裕子, 松田佳和, 小児に対するバンコマイシン初期投与法のモデリング&シミュレーションによる評価, 日本小児臨床薬理学会誌,

30(1), 139~145, (2017).

- 12) 藤原邦彦, 松浦誠, 千葉健史, 佐古兼一, 藤澤美穂, 前田智司, 日本薬科大学における薬学長期実務実習でのストレス調査, 薬学教育, 1(1), 1~12, (2017).
- 13) 松田佳和, 羽二生久夫, 塚原完, 井上俊夫, 佐古兼一, 杉田和夫, 馬淵知子, 江水保, 佐藤和三郎, プタ肝臓分解物のヒト認知機能改善効果, 医学と薬学, 73(8), 1057~1066(2016)

[総説]

- 1) 佐古兼一, トブラマイシン母集団薬物動態モデルの評価を経て臨床適用の可能性を探る, ファルマシア, 53(1), 67, (2017).

[著書]

- 1) 佐古兼一, 共著, わかりやすい薬学系の数学演習, 講談社, (2016).

[その他]

2. 主な学会発表

[国際学会]

- 1) A. Kudo, S. Nakahara, K. Sako, T. Inoue, I. Taguchi, M. Kyogashima, Atheromatous plaque injuries in coronary arteries elevate local serum sulfatide levels, which might contribute to the pathogenesis of atherothrombosis, 25th International symposium on glucoconjugates, Mirano, Italy (2019).
- 2) K. Sako, N. Yoshikawa, N. Hashimoto, Y. Matsuki, K. Arai, K. Ikawa, N. Morikawa, Y. Matsuda, External evaluation of amikacin population pharmacokinetic models in Japanese adult patients, 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology, Kyoto, Japan, September (2017).

[国内学会]

- 1) 鈴木萌子, 笠井英史, 佐古兼一, 浜田幸宏, 木村利美, 採血デザイン検討ツールの母集団薬物動態解析計画への実装 経口投与製剤を例に, 第36回日本TDM学会・学術大会, 東京, 5月(2019).
- 2) 鈴木萌子, 笠井英史, 佐古兼一, 浜田幸宏, 木村利美, 好中球減少によるクリアランス変動要因を考慮した成人がん患者におけるバンコマイシン母集団モデルの Leave-one-out 法による予測性評価, 第36回日本TDM学会・学術大会, 東京, 5月(2019).
- 3) 榑拓人, 笠井英史, 伊賀正典, 高野温志, 町田充, 鈴木萌子, 佐古兼一, TDM解析ソフトで算出されるベイズ推定による血中濃度予測に対する標準誤差の重要性, 第36回日本TDM学会・学術大会, 東京, 5月(2019).
- 3) 鈴木萌子, 笠井英史, 佐古兼一, 清水裕, 織本桂, 矢吹直寛, 駒井信子, 渡邊好造, 渡邊なお子, 丸林万季子, 中村益美, 成人がん患者におけるバンコマイシンの母集団薬物動態解析, 第40回日本臨床薬理学会学術総会, 東京, 12月(2018).
- 4) 伊地知由樹, 佐古兼一, 伊賀正典, 高野温志, 町田充, 猪川和朗, 藤掛佳男, 松田佳和, バンコマイシンの有効性・安全性に関する PK-PD パラメータ目標値の妥当性評価, 第35回日本TDM学会・学術大会, 福岡, 5月(2018).

- 5) 佐古兼一, 鈴木萌子, 松田佳和, 笠井英史, *Clinical Pharmacometrics* 解析における実践的諸問題
母集団薬物動態・薬力学(PopPK-PD)解析における試験デザイン シミュレーションに基づく検討方法, 第 34 回日本 TDM 学会・学術大会, 京都, 9 月(2017).
- 6) 橋本直人, 佐古兼一, 本波茉耶香, 織本桂, 矢吹直寛, 矢嶋美樹, 河村剛至, 松田佳和, バンコマイ
シンの PK-PD パラメータ目標値と各種母集団薬物動態モデルへの適用に関する検討, 第 33 回日本
TDM 学会・学術大会, 栃木, 5 月(2016).
- 7) 柘植昂太, 佐古兼一, 喜古康博, 篠原嘉篤, 橋本直人, 三浦聡至, 河 剛至, 松田佳和, PMDA からの
医薬品適正使用のお願い No.7「炭酸リチウム投与中の血中濃度測定遵守について」への対応を考慮
した母集団薬物動態モデルの活用に関する臨床薬理学的検討,, 第 33 回日本 TDM 学会・学術大会,
栃木, 5 月(2016).

3. その他特筆すべき研究業績

II. 教育業績

1. 担当授業科目

2020～2016 年度

実践医療統計学 (4 年生) 10 コマ

その他, 医薬品情報実習 (4 年生), 実務実習 (5 年生), 実務実習事前実習 (4 年生), 薬学総合演習

I (実務, 病態薬治, 4 年生), 薬学総合演習 II (実務, 薬治, 6 年生)

2. その他特筆すべき教育業績